

田代集落から本村に向かって約 100 m のところにあります。化石を含む岩石は、約 500 万年前（新第三紀鮮新世）に、浅い海で堆積したと考えられる増田層（種子島の基盤を形成している地層のひとつ）の中にある団塊状石灰岩で、カキなどの二枚貝、巻貝などの化石を多量に含んでいます。石は非常に硬く、これは化石ができる時に貝の中のカルシウム分が溶け出してまわりの砂を固めたからです。

貝の化石は、平山や茎永、島間でも発見されていますが、田代化石のように何種類もの貝が一緒になって、しかも転石（ノジュール）のように出てくるのは珍しく、町内では河内の化石群で、ほかには中種子町納官平鍋でみられます。こうした化石を詳しく調べていくことによって、500 万年前の南種子には、どのような生物がいて、どんな自然環境であったのかを知ることができます。



田代化石